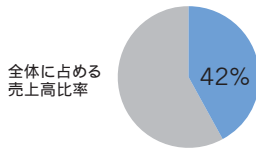


セグメント情報

事業の種類別業績

機械加工品事業



機械加工品事業の売上高は137,662百万円と、前期比8,067百万円(6.2%)の増加となりました。営業利益は、26,195百万円と前期比1,639百万円(6.7%)の増加となり、売上高営業利益率(売上高は外部顧客に対する売上高)は19.0%と前期より0.1ポイント上昇しました。タイ・パーツ高の悪影響はあったものの、引き続き好調な世界の需要環境を背景として主要製品の販売が伸長し、販売単価も安定して推移しました。

主要製品群、市場、市場での位置付け

製品群と主要製品	主要市場	当社の世界市場占有率 ^(注)
ベアリング及びベアリング関連製品		
ミニチュア・小径 ボールベアリング	各種小型モーター、家電、 情報通信機器、自動車、産業機械	60%
ロッドエンド& スフェリカルベアリング	航空機	50%
ピボットアセンブリー	HDD	65%
その他機械加工品		
特殊機器、ネジ	航空機、自動車、産業機械	

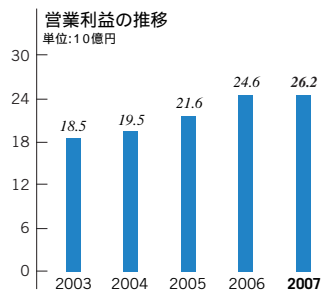
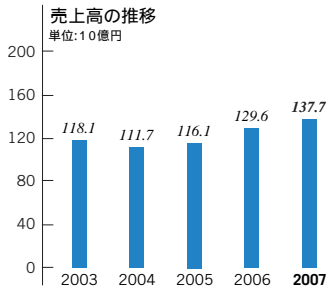
注：市場占有率は数量ベース。ロッドエンド&スフェリカルベアリングのみ金額ベース。当社で独自に入手した情報及び市場調査会社の情報を基に、当社が対象とする市場における占有率を推定しております。

事業詳細

主力のミニチュア・小径ボールベアリング事業では、自動車、PC及び周辺機器、オフィスオートメーション向けなどを中心に販売が増加し、利益も増加しました。特に、ピボットアセンブリーやファンモーターなどPC・デジタル家電製品向けの需要拡大に伴うミニチュアサイズ・ボールベアリングの市場の広がりに対応し増産を実施しております。歩留まり向上と合理化による原価低減も継続して行っております。また、製造の原点への回帰をテーマとして事業の強化をはかりながら、基礎技術開発部門の強化もはかっております。

ロッドエンド&スフェリカルベアリング事業では、世界の航空機生産が好調で、売上高と利益が増加しました。年率2桁増が続く航空機需要に対応し、軽井沢、米国、英国の3拠点で生産能力の増強を実施すると同時に、低コスト体制構築と生産能力増強を目的としてタイの前工程生産能力の拡大をさらに進めております。また、従来から展開しているロッドエンド&スフェリカルベアリングに加え、エンジン周辺部でのボールベアリング部品やより高度な加工技術を駆使した大型メカパーツ分野への進出をはかっております。

ピボットアセンブリー事業では、PCやデジタル家電等に需要が拡大しているHDD向けに売上高が増加しました。今後も年率2桁増が続くと予想されるHDD市場で圧倒的なシェアを維持することを方針としております。生産能力の増強と、部品内製化、歩留まり向上、及び設計標準化による継続的な原価低減をはかっております。

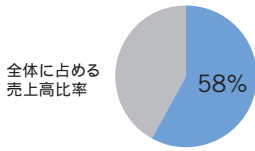


主要製品

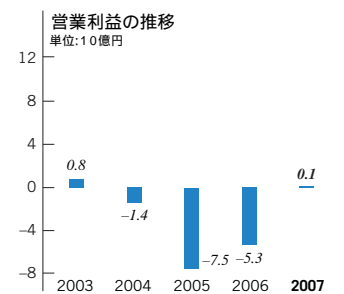
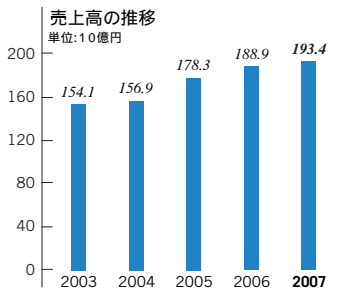
ベアリング及びベアリング関連製品
ミニチュア・ボールベアリング
小径ボールベアリング
シャフト一体型ボールベアリング
ロッドエンドベアリング
スフェリカルベアリング
ローラーベアリング
スリーブベアリング
ピボットアセンブリー
テープガイド

その他機械加工品
航空機用・自動車用ネジ類
特殊機器
電磁クラッチ / 電磁ブレーキ

電子機器事業



電子機器事業の売上高は193,360百万円と、前期比4,509百万円(2.4%)の増加となりました。これは、キーボードの事業構造改革による売上減少があったものの、主に液晶用LEDバックライトを中心とするエレクトロデバイス製品の増加や円安による増加要因もあったためです。営業利益は前期比5,357百万円改善し、70百万円と、4年ぶりに黒字へ転換しました。売上高営業利益率(売上高は外部顧客に対する売上高)は0.0%と前期より2.8ポイント改善しました。これは、タイ・パーツ高の悪影響はあったものの、主に、情報モーター、キーボード、HDD用スピンドルモーターにおける収益改善策の効果が表れてきたためです。



主要製品群、市場、市場での位置付け

製品群と主要製品	主要市場	当社の世界市場占有率(注)
回転機器		
HDD用スピンドルモーター	HDD	15%
情報モーター (ファンモーター、ステッピングモーター、 ブラシ付DCモーター、振動モーター)	PC・サーバー、情報通信機器、 家電、携帯電話、自動車、 産業機械	製品により 5~20%
その他電子機器		
PC用キーボード	PC	5%
液晶用LEDバックライト	携帯電話、デジタルカメラ、 デジタル携帯端末	15%
スピーカー	オーディオ機器、PC、自動車	
計測機器	産業機械、自動車	

注：市場占有率は数量ベース。当社で独自に入手した情報及び市場調査会社の情報を基に、当社が対象とする市場における占有率を推定しております。

事業詳細

HDD用スピンドルモーター事業では、タイ・パーツ高によるコスト上昇はあったものの、さまざまな原価低減施策を実施したことにより損益が改善しました。引き続き販売単価の維持を目指し、また、市場の伸びが高く単価の高い2.5インチFDBモーターの生産・販売の引き上げに注力しております。

情報モーター事業では、事業再構築の初期段階が完了し、売上高の増加と利益黒字化を達成しました。具体的には、製造拠点の統廃合、外注活用の見直し、製造の効率改善を柱とした生産体制整備と、親会社へのロイヤリティ支払いの見直しによりコストの引き下げを行いました。また、受注内容の精査や新製品の投入により製品構成の改善も実施しております。好調な需要の伸びを受けて、ファンモーターについては、大幅な生産性向上と生産能力増加を狙った生産ラインの大改造を行いました。

キーボード事業では、下期中に事業構造改革を実施しました。不採算製品から撤退し、ノートPC用キーボード、無線機能付キーボード製品などの高付加価値モデルに集中しました。また、製造、営業及び技術の組織再編、人員削減、設備の除却などにより固定費を大幅に削減しました。これにより売上高は減少しましたが、事業構造改革完了後の2007年3月には月次ベースでの黒字化を達成しました。

エレクトロデバイス製品事業では、主力の液晶用LEDバックライトにおいて単価下落はあったものの、携帯電話市場の拡大と当社製品採用機種数の増加により、売上高が大きく伸長しました。3月には、車載向け中型液晶用LEDバックライトに参入しました。

スピーカー事業では、競争激化を受け、売上が減少しました。

計測機器事業では、コア技術に集中し個々の市場に対応した結果、売上は横ばいでしたが、高水準の利益を維持しました。

主要製品

回転機器

- ハードディスクドライブ(HDD)用スピンドルモーター
- ファンモーター
- ハイブリッド型ステッピングモーター
- PMステッピングモーター
- ブラシ付DCモーター
- 振動モーター
- VRレゾルバ

その他電子機器

- パソコン(PC)用キーボード
- スピーカー

エレクトロデバイス製品

- カラーホイール、光磁気ディスクドライブ(MOD)、液晶用ライティングデバイス、フロッピーディスクドライブFDD用磁気ヘッド、バックライトインバーター

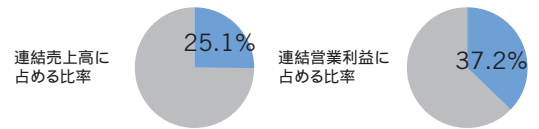
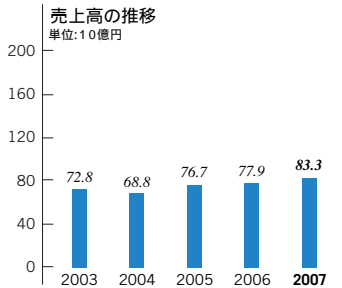
計測機器

- ひずみゲージ、ロードセル

所在地別業績

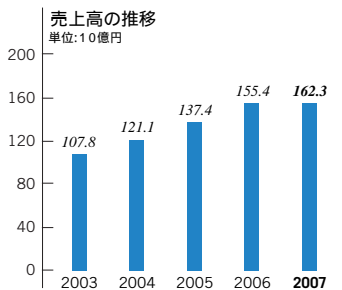
日本

日本地域は、売上高83,265百万円と前連結会計年度に比べ5,409百万円(6.9%)の増収となり、営業利益も海外子会社よりの輸入品価格の変更等があり9,770百万円と7,848百万円(408.3%)の大幅な増益となりました。



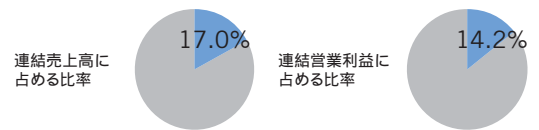
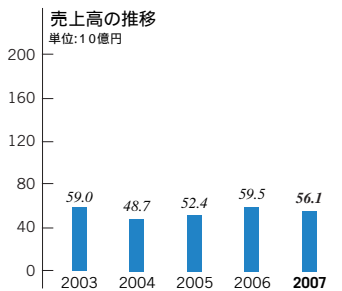
アジア(日本を除く)

アジア地域は、高成長を続けている中華圏を含み、多くの日本、欧米等のメーカーの生産拠点として重要な地域です。売上は、情報通信機器関連業界の需要拡大や家電業界の需要に支えられ、中華圏を中心に堅調に推移しました。この結果、売上高は162,330百万円と前連結会計年度に比べ6,907百万円(4.4%)の増収となりましたが、営業利益は11,299百万円と1,544百万円(12.0%)の減益となりました。



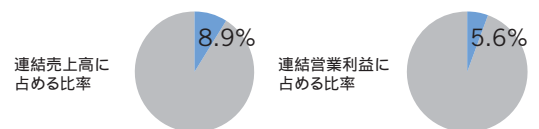
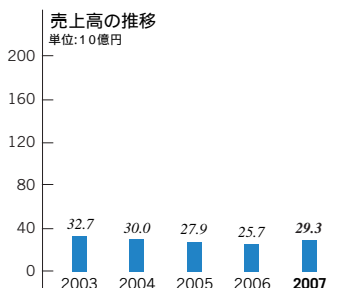
北米・南米

北米地域は、米国生産のボールベアリング及び航空機関連業界等向けのロッドエンドベアリングが、受注・販売共に好調に推移しました。また、輸入機械加工品及び電子機器も販売は堅調に推移しましたが、高付加価値モデルへの集中を進めたキーボードの売上減少に伴い、売上高は56,110百万円と前連結会計年度に比べ3,358百万円(5.6%)の減収となりました。しかし、営業利益は3,730百万円と842百万円(29.2%)の増益となりました。



欧州

欧州地域は、緩やかな経済成長のなかで、ボールベアリング及びロッドエンドベアリング等が堅調に推移しました。この結果、売上高は29,317百万円と前連結会計年度に比べ3,618百万円(14.1%)の増収となりましたが、営業利益は1,466百万円と150百万円(9.3%)の減益となりました。



(注)売上高: 外部顧客に対する売上高